

平成25年

季刊

夏季号

Vol.44

亞東



前会長安倍晋三先生・会長代行大江康弘先生



社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

- ① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版
- ② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介
- ③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋
- ④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談
- ⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋
- ⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で、昭和二十四年(一九四九年)東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。

第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。

その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織の拡大の一途を辿りましたが、昭和四十七年(一九七二年)の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち昭和四十六年(一九七一年)、千葉三郎先生(衆議院議員・労働大臣)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り自ら發起人となり同年五月二十九日『社団法人亜東親善協会』(外務省認可)を設立したのであります。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、原先生の意を受け、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二十一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められ協会の発展にご尽力されて参りました。

現在、アジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。しかしながら、日本も含めた領土問題などの紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題等も山積しております。かかる情勢の中で、平成二十四年五月、元内閣総理大臣・安倍晋三先生を会長にお迎えし、アジアの繁栄と平和に貢献するために、協会役員一同、陣容を強化し、叡智を結集して努力を結集して努力を続けております、

安倍晋三会長は、平成二十四年十二月二十五日退任されました。

季刊「亜東」平成二十五年 新春号・目次

社団法人亜東親善協会・概要・変遷

二頁

目次・協会役員名簿

三頁

元旦祝辞・台北駐日經濟文化代表處

沈斯淳閣下

四頁

新年挨拶・大江康弘会長代行

五頁

新年挨拶・山本順三副会長

八頁

新年挨拶・公益財団法人交流協会

今井正理事長

九頁

年初にあたり・張建國副会長

十頁

忘年の集い

十二頁

社会見学会

十五頁

留学生懇談会

十七頁

新年名刺広告

十九頁

お知らせ・編集後記

二十三頁

.....

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

沈 斯 淳	中田 宏	今井 正	齋籐 毅	毛 友 次
林 錦 清	小田村四郎	黄 清 林	林 瑞 祥	長尾 孝則
楊 作 洲	李 海 天	施 梨 鵬	鄭 尊 仁	李 純 京
羅王 明珠	謝 文 政			

社団法人亜東親善協会理監事

[会長代行]	大江 康弘			
[副会長]	山本 順三	張 建 國	張 碧 華	
[業務執行理事]	崎谷 秀彦	赤松 則宏	益山 茂	並木 正芳
[広報担当理事]	南部 晴彦			
[理事]	千葉 健司	小松 省二	橋本 靖男	仲谷 俊郎
	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド	松永理恵子
	多 忠和	三浦 信行	伊野 雅晴	柴田 徳文
[監事]	荘司 隆一	藤山 雅康		
[支部長]	青森県・大見光男	岩手県・高橋義麿		
	茨城県・石川多門	広島県・月村俊雄		

二〇一三年元旦祝辞

台北駐日經濟文化代表處

駐日代表 沈 斯淳 閣下



亜東親善協会の皆様 謹んで
新年のお祝いを申し上げます。

昨年五月三〇日に駐日代表に
着任してから半年が経過しまし
たが、昨年を振り返りますと、
経済・貿易、観光、文化交流な
どさまざまな面において大きな
進展があり、台日関係の緊密さ
を改めて実感しています。

昨年は、経済面では「台日産
業協力推進オフィス」の開設や、
「台日特許審査ハイウェイ（P
PH）覚書」、「台日電機電子
製品相互承認協定」、「台日産
業協力架け橋プロジェクト協力
強化に関する覚書」が調印され
るなどの具体的な進展がありま
した。また、観光面では台日オ
ープンスカイ（航空自由化）協
定により、日本の石垣島、鹿児
島、静岡、富山、函館、旭川、
帯広、釧路などの地方空港と台
湾を結ぶ航空路線が次々と開設
され、昨年の台日間の往来人数
は、一昨年の二五〇万人を大幅

に超え、三〇〇万人に達する勢
いとなりました。

昨年は東シナ海の緊張が高ま
ることもありましたが、台湾と
日本は海を隔てた友邦であり、
馬英九総統は昨年八月に「東シ
ナ海平和イニシアチブ」を提起
し、争議を棚上げし、理性的な
対話と共同開発を通じた平和的
解決を呼びかけています。昨年
一月には、第一七回台日漁業
会談開催に向けた予備会談が開
かれ、今後も誠意と善意をもつ
て協議を継続させていくことで
一致しました。第一七回台日漁
業会談で具体的な成果が出るよ
う期待しています。

今年、当代表処は、四つの目標
に向かって邁進していく所存で
あります。第一は、台日間の産
業分野における連携の促進です。
昨年の日本企業の台湾への投資

総額は第四位でしたが、投資件
数は第一位でした。これは、台
日の中小企業間の連携が活発に
行われていることの表れといえ
ます。台湾の経済の主体は中小
企業であり、日本の中小企業が
台湾と連携して、中国大陸およ
び世界のマーケットを目指すこ
とは、お互いの強みを活かし、
補完し合え、双方にとって有利
なビジネスになるでしょう。今
年は、これらを基礎に引き続き
「積み上げ方式」によって可能
な部分から着実に、経済連携を
深めてまいりたいと願っていま
す。

第二は、文化面での交流の促
進です。今年四月に「宝塚歌劇
団」の台湾初公演開催が決まり、
「楚留香」を題材にしたショー
が披露されます。また、台北の
「国立故宫博物院」収蔵品の日
本での展覧会も来年六月〜九月
に東京国立博物館、同一〇月〜

一月に九州国立博物館で開催されることも決定しており、それに向けた準備を進めてまいります。

第三は、観光面における交流の促進です。現在、台日間は毎週三五〇便のフライトがあり、今年には台湾から新潟と高松への定期便が就航する予定です。観光交流の緊密化を通じて、台日間の相互理解が深まるよう願っています。

第四は、若者間の交流の促進です。企業、スポーツ、文化、教育、さまざまな分野における交流に力を入れていくほか、台日間の修学旅行を通じた交流が深まるよう期待しています。

私は日本に着任以来、日本のさまざまな地方を訪問しました。そのなかで深く感動したことは、

日本各地の皆様が、台湾に対し

て極めてよい印象を持っておられることでした。このような良好な信頼関係の基礎の上に、われわれは日本の各界と連携しながら、台日間のパートナーシップを強化し、共に努力し、お互いのさらなる発展を促していきたいと願っています。日本の皆様もぜひ台湾を訪れて、台湾のよさを肌で感じてください。

最後に、中華民国（台湾）政府及び国民を代表し、台日間の一層の友好増進と皆様のご健康を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

【台北駐日経済文化代表處

二〇一三年元旦】

台北駐日経済文化代表處

東京都目黒区白金台五・二〇・二

電話〇三・三三八〇・七八一一

新年のご挨拶

社団法人亜東親善協会会長代行

参議院議員 大江 康弘

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい年を皆様、お健やかに迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

また、昨年は公私にわたりました暖かいご指導を賜りましたこと、改めて感謝と御礼を申し上げます。

さて、短い期間でありましたが、私共の協会の会長をご快諾いただき、何かとご指導ご支援をいただきました安倍会長が、

昨年末の政権交代によって再び日本国総理としての重職を担うこととなられ、第二次安倍内閣が無事スタートしました。

誠に喜ばしいことであり、会員一同御同慶に絶えないところであります。改めて安倍会長に心よりお祝いを申し上げますと思います。

安倍会長には総理就任とともに、その職責上、残念ながら私共の会長職を離れることとなりました。今後の「会長職」につきましては、安倍会長や皆様方のご意見をいただきながら、早急に決めたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

さて、日本の政治も新しい年と共に、今までと違って希望や明るさが見えてきたように思います。

昨年末、平成冬の陣が終わりましたが、今回の総選挙は前回の暑い夏と違って、寒さ厳しい冬の中での戦いだったので有権者も寒さで気合いが入り頭もす

つきりまともな選択をしてくれたのだろうか、多少はその気温も関係があるが、やはりこの三年余の民主党政権の軽い言葉による軽い政治、言葉遊びが過ぎ政治の混乱や混乱をもたらしたのも、そもそも経験の浅さからくる政権担当能力や統治能力の欠如の結果、政権欲しさに国民を欺いたマニフェストも何一つ実現できず、今やその言葉さえも嘘の代名詞となってしまうが、結局、政権交代という名の社会実験はもの見事に失敗に終わったというわけで、このような姿が今回の選挙結果の最大の要因であったと思われま

す。マスコミ報道は終始、自・公の優勢が伝えられ「逆バネ現象」が働いて終盤は民主が有利になるのではないかと言われていたが、こんな報道で逆バネが働くほど、この三年間の民主党政権

がやってきた罪は軽くないと感じた国民は多かったと思います。

昔、子供の頃、小学校の社会科で「北極」「南極」という位置は地球儀で教えてもらったが、今、流行りの「第三極」などという場所はどこにあるのか教えてくれなかったので知らないが、一体彼等は何処へ進もうとしているのか、唯、テレビ、マスコミでの人気者を集めた感はない。

しかも今時は市長や知事になった人が政党を作るのもトレンドらしいが、少なくとも首長という職柄は片手間でやるような軽い職ではない。そのような状況の中にもかわからず、有権者の判断はしっかりしていました。

この国難(ほとんど民主党政

権の無力からきた人災でありましたが)にあつて、しっかりと任せられる政党の基準は経験、実績に基づいた安定感であつて、やはり自民党とそして長年、信頼関係を築いてきた公明党にその責任を預けたのは、正に賢明な選択であつたと心から有権者に敬意を表したいと思ひます。

同時に今回の選挙は現在の小選挙区制度が抱える欠陥や問題点も改めて提起しました。

二大政党制どころか、政党名を覚えているだけでも選挙が終わつてしまう(二一政党が乱立程の多党化現象で、しかも小政党がキャスティングボードを握つて政策が遅々として進んでいかないもどかしさ、また所属人数が少数でも二%条項で政党交付金を得られるのはまるで税金の振り込み詐欺にも等しい。

そして何よりも欠点は、出た党に先に公認候補者がいれば、その政党からは出馬できないという事、今回は結果が良かったからいいが、得票総数と獲得議員数とのパーセンテージのアンバランス等々、いずれこの制度は議論の対象となつてくるでしょう。

こうしてみますと、改めて政治に求められるのは豊かな「経験」とその積み重ねによる「実績」そして、その経験や実績が生み出す「知恵」というものである事を国民も改めて理解したのではないのでしょうか。

政治の舞台は今日、何が起きるか、何が起こるのかは全くわかりません。

正に「一寸先は闇」のこの政治の世界でなによりも現場対応、

現場主義が求められます。

一刻を争うその時の正しい判断、決断を支えるのは長年にわたって積み重ねられた豊かな経験しかありません。

今日の国難を救う知恵は、自公政権の信頼関係から生まれ、しっかりと答えを出してくれると確信する一人であります。

さて、日・台関係であります
が、昨年(二〇二二年)は中華民国も「次の二〇〇年」に向かって新たな一歩を歩み出した大きな一年でありました。また、馬英九総統も昨年一月には見事に再選を果たされ、二期目の大切なスタートの年になりました。

同時に不幸な国交断絶から四

〇年という節目の年でもありませんが、この四〇年間日台関係を大切に思う先人、先輩の努力の結果、世界の中でも一番友好と絆の深い関係が構築されてきたことは、大変嬉しくご努力をいただいた皆様に、心より感謝と御礼を申し上げる次第です。

今、尖閣諸島を巡って問題が発生していますが、日・台関係と日・中関係は全く違います。だから、私は心配していません。

日・台関係を大切に思う人々にとりましては、何よりもこの尖閣問題を乗り越え、新たな友好のページへと進んでいかねばならないとの共通の思いをしっかりと持っています。

そのためにも、まず現在進ん

でいる日・台漁業問題の交渉を解決し、経済問題は日・台EPAを早急に締結し共に発展していく共通の土台作りをしなければなりません。

これら懸案の政治課題を日々頑張っておられる沈斯淳大使と共に進めて参ります。

あの辛かった「三、一一の東日本大震災」の時、誰が、どの国が悲しみを共有し苦しみを分かち合つて勇気づけ、力づけてくれたのかを日本国民はしっかりと理解しています。

それは中華民国であり、皆様方です。今度は我々が台湾の今後、更に国際空間において、その行動範囲を拡げていくよう協力し、助け合ってい

ねばなりません。

我々にはその決意と覚悟があります。

政治の現場では、時にはぶつかり合つて、国と国の間に溝や壁ができませんが、その溝を埋め、壁を取り払ってくれるのが両国の一人一人の国民であります。

日頃のその努力に感謝し、本年も両国が一緒になって発展していけるよう、台湾を心から愛する国会議員の一人として力一杯頑張つて参ります。

心より日・台両国の友好と平和、両国民の幸せを願い、新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

社団法人亜東親善協会副会長
参議院議員 山本 順二

新年明けましておめでとうございませう。旧年中は皆様方に大変お世話になり、日台友好親善に格別のお力添えを賜り、心から御礼申し上げます。本年も温かいご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

昨年は台湾にて総統選挙が実施され、馬英九総統が再選され二期目をスタートされました。それに伴い、台北駐日経済文化代表処に新しく沈斯淳代表閣下が着任されました。我々も心から歓迎し、より良好な日台友好関係が構築されますことをご期待申し上げます。

私も、昨年の安倍晋三新会長のご就任に伴い、歴史ある亜東親善協会の副会長に就任いたしました。新たな思いで、今まで

以上に日台両国の友好親善に努めて参る所存です。

また、昨年末に第四六回衆議院総選挙が実施され、自由民主党が大勝し、安倍内閣が発足いたしました。新しい年を新しい体制で迎え、まずは震災からの復旧・復興を加速して、日本の経済、教育、外交、暮らしを立て直して参ります。

言うまでもなく日本と台湾は民主主義、自由、人権などの価値観を共有し、歴史的にも深い関わりを持つアジアの隣国であります。日本にとり一番大切で、親しい国が台湾であります。また先の東日本大震災に際しては、いち早く台湾からの多大なご支援をいただきました。改めて絆の深い隣国である台湾に対して深甚なる感謝の意を表します。今まさに日台間は極めて緊密で友好な関係にあり、両国における民間レベルの交流を図っているのが亜東親善協会であり、

その役割は大変重要なものであると認識いたしております。

一昨年、航空自由化協定が締結されオープンスカイが実現し、日台投資協定も締結されました。それを受けて昨年は、静岡、鹿児島、富山、函館、旭川、釧路との航空路線が次々と新たに開設され、日台双方の旅行者数は着実に増加をいたしております。また、両国間の貿易や投資件数も順調に推移して参りました。

一方、私の地元の愛媛県でも日台交流を積極的に推進いたしております。たとえば愛媛・松山空港―台湾・松山空港間の航空路線開設に向けて取り組んでいるところでありませう。

また、愛媛には「しまなみ海道」という、自転車で橋を渡りながら島を巡ることのできるサイクリング道路があります。昨年台湾の自転車メーカーであるジャイアント社の劉金標会長一行約四〇人が来県し、サイクリ

ングをしたのがきっかけとして、来年には愛媛にて世界的な自転車の大会を実現させる計画が進んでおります。

そして、今年は宝塚歌劇団の台湾公演が行われますし、来年には「国立故宮博物院」の日本展開催が予定されており、準備も順調に進んでおります。このように日台関係は、現在政府レベルでの国交がないにも関わらず、経済・文化・貿易・観光などの分野で大変良好な関係を築いております。

今後も多方面にわたり地道な交流を通じて、相互理解を深め共に歩んで参りたいと考えております。

最後になりましたが、本年がより良い年となり、皆様方のいっそうのご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げますと共に、日台両国のさらなる友好と発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

新年挨拶

公益財団法人交流協会

理事長 今井 正

皆様に謹んで新年のお祝いを申し上げます。

「亜東親善協会」は一九四九年の設立以来一貫して日本と台湾を含むアジア諸国との交流ならびに友好親善を促進しておられ、私ども交流協会も日頃より多くのご指導・ご鞭撻をいただいております。

「亜東親善協会季刊誌」「亜東」は、台湾、日本、朝鮮半島の状況を的確に把握する助けとなる貴重な情報源であり、今後大事に拝読させていただきたい季刊誌です。そのような季刊誌で、

新年のご挨拶をさせていただく機会を得て、私は大変光栄に感じております。本年も「亜東親善協会」のますますのご活躍及び季刊誌「亜東」のさらなる発展をお祈り申し上げます。

二〇一二年も日台間の実務関係は着実に発展し、「特許手続分野における相互協力のための覚書」、「電機電子製品の検査認証及び産業協力など」についての相互承認に関する相互協力のための取り決め」、「日台産業協力架け橋プロジェクト協力強化に関する覚書」が合意されるなどの進展がありました。また、二〇一二年の日台間の人的往来は、二〇一一年に締結した「オープンスカイ（航空自由化）協定の

効果もあり、鹿児島、静岡、富山、函館、旭川、帯広、釧路などの地方空港と台湾を結ぶ航空路線が次々と開設され、一昨年の約二五〇万人を大幅に超え、ほぼ三〇〇万人を数えました。

上記のような昨年の成果を十分に生かし、二〇一三年の日台関係が今後も着実に進展することを期待し、当協会は、東京本部、台北事務所、高雄事務所の職員が一丸となってこの目標に向かって努力して参りたいと思っております。

私は昨年の四月まで交流協会台北事務所代表として台湾で勤務いたしました。その間、東日本大震災を巡り台湾では「がんばれ日本」という熱い励ましと

支援、日本からは「ありがとう台湾」という心からの感謝の気持ちと行動が沸き上がり、まさに友情の大合唱とも言えるべき状況が起こったのを目の当たりにしました。私はこの経験を通じ、

日本の人々と台湾の人々の間に豊かな心と心の通い合い、深い友情の絆があることを実感し、そのことのすばらしさに感動しました。私は今後もこのことをずっと心に置いて、日台関係がさらに深まるように最善の努力を尽くす決意であります。皆様のご指導・ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

本年も日台関係の一層の発展のために邁進しましょう！

中華民國一〇二年

年初にあたって

導者の顔ぶれがそろふことになり
ます。

ことを明確にしています。

社団法人亜東親善協会副会長

(元中華民國台湾立法委員)

張 建國

又、先般の総選挙において、

本協会の多くの顧問や日華議員

懇談会の方々が衆議院に返り咲

き、日台関係がよりいっそう緊

密になるものと確信しております。

日本と台湾の友好関係は緊密

かつ良好に推移しておりますが、

懸案事項として、尖閣列島をめ

ぐる日台間の漁業交渉が一日も

早く妥結を見ることを期待して

おります。

申すまでもなく、尖閣列島を

巡っては、日本が日本の領土と

して実効支配していますが、中

国が領有権を主張、又、台湾も

主権を主張しています。

中華民國台湾の元立法委員と

して台湾の立場から申し上げる

ならば、尖閣列島は明らかに台

湾の附属島嶼なのです。理由は

極めて明快です。

日本政府の公式主張によれば、

「尖閣列島は一八九五年（明治

二八年）一月一四日に沖縄県に

編入した」とありますが、裏を

返せば「一八九五年（明治二八

年）以前は日本領土ではなかつ

た」「尖閣列島は元来、沖縄県と

は別個の存在であつた」という

ことになります。

又、一八九五年は日清戦争の

結果として台湾が日本による五

〇年間の統治下に入った最初の

年なのです。しかしながら、台

湾としては、尖閣列島に対する

主権を主張しつつも、日本の実

効支配の現状を踏まえ、日本と

の友好関係を基礎に平和的な解

決を望み、中国とは一線を画す

馬総統は、昨年九月七日、お

りしも日本と中国の間の緊張状

態が高まっていた際、「東シナ海

平和イニシアチブ推進綱領」を

提唱し、関係諸国が東シナ海を

めぐむ問題に対して、二国間或

いは多国間協議を通じて、主権

に絡む問題は棚上げにして、相

互信頼と共通利益を追求するこ

とを呼びかけ、今年の年頭挨拶

においても再度提唱しています。

争議が解決を見なければ、永

久に開発もできず、誰にとつて

も無益だからであり、平和的な

交渉を経て、相互の共通利益を

図ることを期待されるからです。

困難な課題は多々あるのが、

一歩ずつ克服して行けるのでは

日台間の漁業交渉は、主権云々の問題を離れて解決可能な問題だと考えます。

何故なら、台湾の漁民にとつて、清朝時代（一八九五年以前）、日本統治期間（一八九五年〜一九四五年）、沖縄の米国統治期間（一九四五年〜一九七二年）に至る一〇〇年以上にわたつて、尖閣列島海域は伝統的漁場であったところからです。

一九七二年の沖縄の日本復帰とともに尖閣列島はアメリカから沖縄県の一部として日本の支配下となりましたが、それによつて台湾漁民がこの海域から排除されるのは合理的とは言えないのではないのでしょうか。

又、昨今、排他的経済水域EEZといふ概念が確立したのは一九八〇年代であつて、昔から存在したわけではありません。

実は、今日の世界において海洋権益の争奪が激化した大きな要因が一九八二年の国連海洋法条約（日本は一九九六年に批准）の成立によるもので、これによつて世界各国が排他的経済水域EEZを制定しているのですが、相互の国の主張が異なるケースも少なくありません。

国際法も時代によつて変化を重ねており、各々の立場によつて見解には相違が存在しますし、第一、国際法そのものが中世欧州の紛争の歴史の中から生まれ一七世紀のウエストファリア条約を原点としたものであり、元来アジアの智慧とは異質の文化の産物なのです。

アジアにはアジアの智慧で解決できないものでしょうか。東シナ海は、過去千数百年間の歴史の中において、周辺諸国の交流の場であつた地域です。

これが政争の場ではなく、馬總統の提唱するように東シナ海周辺諸国協力の場合となることを期待したいものです。その第一歩として日台の漁業交渉の早期妥結が実現することを、中華民国一〇二年の初めにあたつて祈念しております。

●社団法人亜東親善協会会長
衆議院議員安倍晋三先生は、二〇一二年一月二五日付で、弊協会会長を退任なさいました。

■清国は、遼東半島、台湾、澎湖諸島など付属諸島嶼の主権ならびに該地方にある城壘、兵器製造所及び官有物を永遠に日本に割与する。（第一条、第二条）

調印は、大日本帝國全權辦理大臣・伊藤博文内閣總理大臣。大日本帝國全權辦理大臣・陸奥宗光外務大臣。

大清帝國欽差頭等全權大臣・李鴻章北洋通商大臣直隸總督。大清帝國欽差全權大臣・李經方二品頂戴前出使大臣。

条約は大日本帝國大皇帝陛下、大清帝國大皇帝陛下が批准し、明治二八年五月八日・光緒二二年四月一四日に交換された。

*批准書 中華民國外交部は、開国以来外交伝統を受継ぎ、一八六一年に總理各国事務衙門が成立し以来の外交文書を保存しています。（編集部）

【下関条約】（一般には馬関条約）
正式名称は【日清講和条約】
一八九五年（明治二八年）四月七日、日本國山口県赤間関市（現下関市）春帆楼で締結。

（編集部）

平成二十四年「忘年の集い」
平成二十四年十二月十一日（火）

明治記念館・蓬萊の間

国政選挙（衆議院選挙）の最中でしたが、協会役員・会員及び家族、国会議員、地方議員、関東地区の各華僑總會・団体関係者、台北經濟文化代表處、東京同學會（台湾留學生）、交流協會、台湾協会、財界関係者等、百五十名余りが参加されました。

台北經濟文化代表處・沈斯淳
駐日代表、中華民國留日東京華僑總會・朱恭亮名譽會長・陳木川會長、中華民國留日橫濱華僑總會・施梨鵬會長、中華民國留日東京華僑婦女會・羅王明珠名譽會長・吳淑娥會長、日本華商總會・朱文元名譽理事長兼會長・林錦漫理事長よりお祝いの生花が届き豪華な会場となりました。誠に有難う御座いました。



司会 協会理事・三浦信行
土館大学学長の「開会の辞」で
定刻開会された。

最初に主催者を代表して、弊
協会副長山本順三参議院議員が
挨拶を行い、「安倍新会長が来て
挨拶すべきところ、選挙という
ことで全国を飛び回っておりま

して、お前が替わりに挨拶して
来いと、又、同じ副会長の大江
康弘参議院議員も地元・和歌山
で会合があり、出席出来ません。
本来、今日は安倍新会長就任を
お祝いする盛大な忘年会となる
はずだったと思いますが、新年
会には出てくれるだろうと思っ
ます」。

「台湾と日本は同じ価値観を共
有し、歴史的にも深い関わりを
持つアジアの隣国であります。
現在、日本にとり一番大切に親
しい国が台湾であります。

日台間は極めて緊密で友好的な
関係にあり、双方における民間
レベルの交流を図っているのが
亜東親善協会であり、その役割
は大変重要なものであると認識
致しております」と述べた。

更に「私の地元・愛媛県でも
日台交流を積極的に推進いたし
ております。例えば愛媛・松山

空港・台湾・松山空港間の航空
路開設に向けて取り組んでい
る」。

台湾の自転車メーカー・ジャ
イアント社・劉金標会長一行四
〇名の来県がきっかけとなり、
二〇一四年瀬戸内しま博覧会
（仮）のイベントとして、しま
なみ海道を使い世界的な自転車
の大会を開催する計画を紹介。
具体例を話された。



来賓祝辞に入り、最初に台北
経済文化代表處・羅坤燦駐日副
代表が挨拶された。



「台湾と日本は民主主義、自由、
人権などの価値観を共有し、歴
史的にも深い関係がある。双方
は国交がないにも関わらず、経
済、文化、観光などの分野にお
いて、極めて良好な関係を築い
てきた」「亜東親善協会は大きな

発言力を持つっており、代表處と
しても今後とも深いパイプを築
いていきたい。ご理解とご支援
をお願いしたい」と述べられた。
さらに昨年以來、台日間におい
て調印された「投資協定」「マネ
ーロンダリング防止覚書」「特許
審査ハイウェイ覚書」などの実
例も挙げ、「これらは国交のない
台日関係において、画期的な成
果といえる」加えて、「昨年十一
月に台日間で調印されたオーブ
ンスカイ協定(航空自由化協定)
による日本の各地方と台湾との
定期便の増加により相互の人的
往来がさらに活発になっている。
文化面における交流について
は、二〇一四年に開催が予定さ
れている国立故宫博物院の日本
開催、二〇一三年の宝塚歌劇団
の台湾公演」等を紹介し、「今後
も青少年交流や双方の国民間の
相互理解の深化に向けて共に歩
んでいきたい」と述べられた。

来賓として挨拶に立った中川雅
治参議院議員は、義父が参議院
議長を務めた原文兵衛氏であり、
亜東親善協会の第二代目会長で
あったこと。



平成24年
社団法人亜東親善協会 忘年の集い

東日本大震災における台湾か
らの多大なる支援に感謝の意を
表すると共に、「台湾のすばらし
さは、長い間の伝統的な交流な
どもあり、日本人にとり親しみ
があり、様々な面で交流のある、
絆の深い隣国であることだ。台
日友好親善にこれからも力を尽
くしていきたい」と述べられた
続いて、一般財団法人台湾協
会・齋藤毅理事長、日本中華聯
合總會・毛利友次會長、中華民
國留日東京同學會・王俊硯次期
會長がそれぞれ挨拶し、亜東親
善協会のこれからの発展に期待
を寄せた。

台北經濟文化代表處、公益財
団法人交流協會、関係者の紹介。
最後に華僑団体代表の紹介、日
本中華聯合總會、中華民國留日
東京華僑總會、中華民國留日横
濱華僑總會、中華民國留日東京
華僑婦女會、中華民國留日台湾
同鄉會、日本華商總會、在日台

湾商工会議所 日本媽祖會、山梨華僑總會、東京中華學校、僑務委員など、代表は登壇された。

乾杯のご発声は、羅王明珠名譽會長、日本中華聯合總會・詹德薰名譽會長は、華僑を代表し



代表處 始め 日台親善関連団体代表の皆様



「会場の皆様がすべて壇上に上がったら大変だと思っていましたが、やっと止まりました」挨拶があり、「華僑団体をこの素晴らしい席にお招き戴き本当に感謝致します。皆様のご健康とご健勝を祈念して乾杯」と音頭を取られた。



歓談が続く中、弊協会・張碧華副會長が中締め挨拶「台湾と日本との関係はこれまでいつも晴れでした」と日台の良好な関係を強調され、三本締めの手締めを行った。

年末、公私ご多忙の中、御臨席戴きました皆様誠に有難うございました。

社会見学会

平成二十四年十一月八日(木)

参議院面会所前 八時半集合

大江会長代行始め・理事・会員
家族・事務局 十五名が参加。

原子力発電は再開、廃炉なのか。
日本はエネルギー資源が乏しい
とされているが、次世代エネル
ギー資源として注目されている
「メタンハイドレート」「シェー
ルオイル」は国内で産出される
可能性があり開発が進んでいる。

視察先・独立行政法人海洋研究
開発機構(JAMSTEC)は、
我が国における海洋科学技術の
総合的な研究開発機関として、
海洋に関する基盤的研究開発、
学術研究に関する協力等の業務
を総合的に行っています。

同機構横須賀本部・山西恒義総

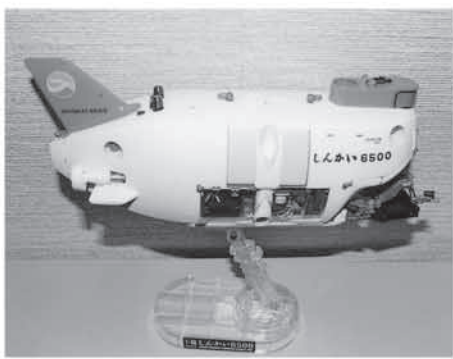
務部長により、機構の概要・研

究設備、船舶等の説明があり、

(地球深部探査船「ちきゅう」)



(潜水船「しんかい六五〇〇」)



日本は世界第六位という広大な
領海・EEZ・大陸棚を保有し、

メタンハイドレートはEEZに

広く分布している可能性がある。

東部南海トラフ海域で今年二月

地球深部探査船「ちきゅう」に

よる世界初の掘削試験が行われ、

海底下のメタンハイドレートを

資源化出来るか調査しました。

水深約千メートルの海底下数百メートルに集

積帯が見つかり、そのメタンの

総量は五七三九億立方メートルで日本

の天然ガス輸入量の五、五年分

に相当する。又、「ちきゅう」は

巨大地震・津波の発生メカニズ

ムを解明のため、熊野灘海底に

設置された監視システム(DO

NET)に連動して海底の「長

期孔内計測」を実施、今後ネッ

トワークに接続される予定です。

*しんかい六五〇〇は、潜航深

度の浅い潜水艦のように船体全

体が水圧に耐えるわけではなく船

体後方の大部分には水が入り込



み、超高水圧に耐えるのは前方
にある厚さ七三、五mmのチタン
合金・内径二メートル程の「耐圧殻」。
コックピット内に操縦士、副操
縦士、研究者の三名が乗り込む。



視察先・電源開発株式会社（J・POWER）は、全国的な電力不足を克服する為、昭和二十七年「電源開発促進法」が成立。これに基いて設立され、日本全国に所有する発電所を運営し各地域の電力会社に電気を供給する電気事業を主力としています。

磯子火力発電所は、昭和四二年国の石炭政策に沿って運転開始され、平成十四年、粉末になった石炭で、何千本の細いステンレス厚肉パイプで高温・高圧の蒸気を作る設備を導入し、環境負荷低減とエネルギー効率向上を世界水準で両立したコンパクトな都市型石炭火力発電所です。

I S O G O エネルギープラザ・コミュニケーションルームで、池森守館長より、発電所のあらまし等説明がなされた。大都市部に位置する為、日本で

初めて公害防止協定を横浜市と締結、排煙脱硫装置の設置等、環境保全対策を講じ、電力安定供給に努めて、三つの目的により生れ変わったとのこと。

一、横浜市の「よこはま二十一世紀プラン」に基づく環境改善計画への対応

二、首都圏を中心と地域への電力の安定供給と供給信頼度の向上

三、発電設備の老朽化への対応



発電出力は一二〇万KW、東北電力・東京電力へ売電。

原子力発電の比率低減が見込まれる中、石炭火力発電は、石油・ガス火力発電と比較し、燃料の石炭が安価であり、かつ、世界各国に分散、賦存（J・POWERは、豪州・ブレイアソール炭鉱の権益取得、輸入。）していることから経済性と供給安定性の両面に優れている。

リプレースした新二号機は、超々臨界圧を導入し、熱効率の向上を実現。最新の環境対策装置を設置、硫黄酸化物・窒素酸化物排出量は極めて低く、「世界で最高水準のクリーンな石炭火力発電所」となっている。更に発電効率の向上と低炭素化を目指し、バイオマス燃料の混焼利用を推進、石炭ガス化燃料電池複合発電へと展開している。（石炭灰）副産物は、セメント原料として、有効利用している。



館長の案内で発電所見学へ



ボイラー内部

（JAMSTEC・米倉司郎様）
（J・POWER・鈴木雅芳様）
御高配誠に有難う御座いました。

中華民國留日東京同學會

防衛省 国会見学会 懇談会

平成二四年一月二八日

今回、日本についてより一層の理解を深め、友好親善の促進を図るため、東京地区で学ぶ中華民国の留学生で組織された「中華民國留日東京同學會」のメンバー三〇名をお招きして、午前・防衛省視察。議員会館で国会議員・交流協会・協会役員と昼食兼懇談会。終了後、国会議事堂見学会を開催致しました。



防衛省正面入口にて、協会役員大江康弘会長代行・張碧華副会長・崎谷秀彦専務理事等が、同學會メンバーをお迎え。



小雨の中、参加者身元確認後、防衛省大臣官房広報課員の案内で、最初に自衛隊創設以来、訓練災害救助等で殉職された隊員の皆さん一八三三柱の御霊の慰霊碑に哀悼の意を捧げました。

厚生棟売店では、防衛省グッズを購入、小休止後、戦勝国による東京裁判の法廷となった本館【四二年前一月二五日 楯の会 三島由紀夫烈士・森田必勝烈士等が、国を憂い、檄文を散布し、バルコニーで自衛隊の決起を促す演説を行ったが、割腹自死された】を移設・復元した市ヶ谷記念館の施設を視察し、展示資料・ビデオ映像での説明解説を受けました。



昼からは参議院議員会館の会議室において、昼食会を兼ねた国会議員との懇談会が行われ「亜東親善協会」顧問、前参議院副議長・山東昭子参議院議員、参議院議員運営委員長・岩城光英参議院議員、協会会長代行・大江康弘参議院議員、公益財団法人交流協会・小松道彦総務部長、齋藤陽子総務部副長、台北駐日經濟文化代表處・張淑玲業務部主席課長、日華議員懇談会・橋本靖男事務局長等ご出席戴き、協会より益山茂業務執行理事、藤山雅康監事が同席しました。



協会・崎谷秀彦専務理事の司会で食事を摂りながらの懇親会が行われました。留学先に日本を選んだ東京同學會會員に冒頭、ご来賓より挨拶が有りました。

■山東昭子参議院議員

「日本人は台湾に対し親近感を持つっており、長い歴史の中で台湾との関係は特別である。これからの国を担っていく皆さん方は、将来に向かってより良い二国間の関係を推進していく上で非常に重要な鍵を握っている。これからもそういった役割を果たして戴きたい」と期待を示された。

■岩城光英参議院議員

福島県出身の議員は、東日本大震災に際し、台湾から寄せられた義捐金、支援物資、ボランティア支援に対し、感謝の意を示した。「今年四月に外国人旅行者として初めて、台湾からのツアー客の皆さんが福島県を訪れて

くださり、地元の人々は心強く感じた。福島県では一日も早い復興に向けて、全力を上げて取り組んでいきたい」と話された。



■大江康弘参議院議員

会長代行は、流暢な中国語で、「台湾と日本は永遠の友人の関係である」と述べ、留学生より盛大な拍手が起きました。その後は日本語で「日台間で我々が実現し得なかったことや、やり残したことを皆さんに託す時代が間近にきている。日本の若者と一体となって、台日の友好関係を深めて欲しい」と述べた。質疑応答があり終了後、国会へ。



国会正面門で記念撮影。



国会見学の案内の衛士


謹 賀 新 年

平成二十五年

<p>台北駐日經濟文化代表處</p> <p>代表 沈 斯淳</p>	<p>公益財団法人交流協会</p> <p>理事長 今井 正</p>	<p>衆議院議員 東京福祉大学客員教授</p> <p>秋本 司</p> <p>東京都江東区青陽五・三二・二二 大興ビル 階 電話〇三・六六六六 一一三三</p>	<p>自由民主党総務部会長 衆議院議員</p> <p>井上 信治</p> <p>東京都千代田区永田町二・二・一 衆議院第一議員会館三七号室 電話〇三・三五〇八 七三三八</p>
<p>衆議院議員</p> <p>金子 恭之 <small>やすし</small></p> <p>東京都千代田区永田町二・二・二 衆議院第一議員会館四二〇号室 電話〇三・三五〇八 七四二〇</p>	<p>衆議院議員</p> <p>中村 喜四郎</p> <p>東京都千代田区永田町二・二・二 衆議院第一議員会館四二一号室 電話〇三・三五〇八 七五〇一</p>	<p>衆議院議員</p> <p>平沢 勝栄</p> <p>東京都千代田区永田町二・二・一 衆議院第一議員会館二二五号室 電話〇三・三五〇八 五一一一</p>	<p>衆議院議員</p> <p>古屋 圭司</p> <p>東京都千代田区永田町二・二・二 衆議院第一議員会館四二三号室 電話〇三・三五〇八 七四四〇</p>
<p>参議院議員</p> <p>松下 新平</p> <p>東京都千代田区永田町二・二・一 参議院議員会館八四号室 電話〇二・六五五〇 〇八八四</p>	<p>衆議院議員</p> <p>宮路 和明</p> <p>鹿児島県日置市伊集院町妙田寺二・三三 電話〇九九・〇七二〇 三三八二</p>	<p>社団法人亜東親善協会副会長 参議院議員</p> <p>山本 順三</p> <p>東京都千代田区永田町二・二・一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三・六五五〇 一〇一九</p>	<p>衆議院議員</p> <p>吉川 貴盛</p> <p>札幌市北区麻生町九丁目一・八 電話〇一一七五 三八八〇 FAX〇一一七五 三八八五</p>

謹 賀 新 年

平成二十五年

<p>自由民主党北海道連合会</p> <p>会長 伊東 良孝</p> <p>東京都千代田区永田町一・二二・一 衆議院第一議員会館六三三号室 電話〇三(三三〇)八七二七〇 FAX〇三(三三〇)八七二七七</p>	<p>日華親善協会全国連合会</p> <p>会長 平沼 赳夫</p> <p>東京都千代田区永田町一・十一・二八 相子永田ビル二階 電話〇三(三三〇)五八六一</p>	<p>一般財団法人台湾協会</p> <p>理事長 齋藤 毅</p>	<p>社団法人アフリカ開発協会</p> <p>会長 矢野 哲朗</p> <p>東京都千代田区船橋井町四番一号 新船橋井町ビル二階 電話〇三(三三二)八九二一 info@afdb.jp</p>
<p>日本中華聯合總會</p> <p>會長 毛利 友次</p> <p>〒六七・〇〇六一 千葉市緑区土気町一六三二一 電話〇四三(三九四)七八二二</p>	<p>中華民國留日橫濱華僑總會</p> <p>會長 施 梨鵬</p> <p>横浜市中区山下町一四〇番地 電話〇四三(六八)二二二四 FAX〇四三(六〇)二八五五</p>	<p>東京日華親善協会</p> <p>会長 山蔭 基央</p> <p>東京都渋谷区千駄ヶ谷一・八・十二 日興ハレス千駄ヶ谷店 電話〇三(三三七)九七〇七</p>	<p>日華親善協会全国連合会理事 大分県一豊日華親善協会会長 大分県議会議員</p> <p>志村 学</p> <p>〒八七五・〇〇四一 大分県臼杵市祇園西五組 電話〇九七二(六三)〇三五六 FAX〇九七二(六三)八〇八七</p>
<p>日韓教育文化協議会</p> <p>會長 草開 省三</p> <p>〒一五七・〇〇六八 東京都世田谷区玉根一・十八・十三 電話〇三(三七〇)二七二八 FAX〇三(三七〇)一七〇六</p>	<p>台湾觀光協会東京事務所</p>  <p>所長 江 明清</p> <p>〒一〇五・〇〇三三 東京都港区西新橋一・五・八 川手ビル二階 電話〇三(三五〇)三五九一</p>	<p>チャイナ エアライン</p> <p>日本支社長 鍾 明志</p> <p>東京都千代田区内幸町一・二・一 日土橋内幸町ビル八階 電話〇三(六三七)八八八〇 FAX〇三(六三七)八八八一</p>	<p>チャイナエアラインズグループ (株)ダイナステイ ホリデー</p> <p>代表取締役社長 國廣 傑</p> <p>東京都中央区銀座一・九・七 陽栄銀座第一ビル五階 電話〇三(三五)四〇八八〇</p>

謹 賀 新 年

平成二十五年

<p>山梨台湾総会理事 北陸台湾朋友会理事 歌手・プロデューサー</p> <p>寒 雲</p> <p>石川県白山市湊町レ四八・十一 電話〇九〇・三七六八四三三</p>	<p>学校法人東京国際学園 東京外語専門学校 東京国際福士専門学校</p> <p>理事長・校長 武田 哲一</p> <p>東京都新宿区西新宿七・二・八 電話〇三・三三六七 二二〇一 FAX〇三・三三六七 二一九七</p>	<p>アジア問題懇話会 大陸問題研究協会</p> <p>会 長 高野 邦彦</p> <p>東京都港三田五・八八・十一 電話〇三・三四四四 五七四五</p>	<p>有限会社沖山興業</p> <p>代表取締役 沖山 建夫</p> <p>東京都八丈島八丈町二根一八一・五 電話〇四九九六・〇一〇一一</p>
<p>友盛貿易株式会社</p> <p>代表取締役社長 鄭 尊仁</p> <p>横浜市中区太田町一・三三・一 電話〇四五・三三〇 二二九八 FAX〇四五・六六三 二二八九</p>	<p>株式会社ホテル横須賀</p> <p>代表取締役 長尾 和典</p> <p>横須賀市米が浜通り二・七 電話〇四六・八五五 二二一一 FAX〇四六・八三三 二二一一</p>	<p>株式会社ヒューマックス</p> <p>代表取締役 林 瑞祥</p> <p>東京都新宿区西新宿二・一〇・二二 東京オベラシティタワー二階 電話〇三・三三七九 八〇〇〇 FAX〇三・三三七九 八〇〇三</p>	<p>台北駐日経済文化代表處 横浜分處</p> <p>處 長 李 明宗</p> <p>横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル二階 電話〇四五・六四二 七七三七</p>
<p>台北駐大阪經濟文化辦事處</p> <p>處 長 黃 諸侯</p> <p>大阪市西区土佐堀一・四・八 日栄ビル四階 電話〇六・六四四二 八四八一</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處</p> <p>處 長 曾 念祖</p> <p>福岡市中央区椋塚三・二・四一 電話〇九二・七三四 二八二〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 那覇分處</p> <p>處 長 粘 信士</p> <p>那覇市久茂地二・一五・九 アルテビル那覇六階 電話〇九八・八六六 七〇〇八</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 札幌分處</p> <p>處 長 徐 瑞湖</p> <p>札幌市中央区北四条西四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一・二二二 二九二〇</p>

謹賀新年

平成二十五年

<p>後藤泌尿科皮膚科医院</p> <p>院長 後藤 康文</p> <p>岩手県宮古市太道一・三二四 電話〇一九(六)二三六三〇</p>	<p>社団法人亜東親善協会会長代行 参議院議員</p> <p>大江 康弘</p> <p>東京都七代田区永田町一・一・一 参議院議員会館五〇九号室 電話〇三(六)五五〇〇五〇九</p>	<p>社団法人亜東親善協会</p> <p>副会長 張 建國</p>	<p>社団法人亜東親善協会</p> <p>副会長 張 碧華</p> <p>千代田区外神田三・七・七 電話〇三(三)三三三三七〇〇三二</p>
<p>社団法人亜東親善協会</p> <p>理事 崎谷 秀彦</p> <p>東京都港区赤坂六・四十一</p>	<p>元内閣府大臣政務官・(元参議院議員) 社団法人亜東親善協会</p> <p>理事 並木 正芳</p> <p>埼玉県所沢市有楽町一・一十一 電話〇四(二)五四八〇五〇 FAX〇四(二)五四八五二</p>	<p>あざみ野ロウンテニスクラブ</p> <p>代表 益山 茂</p> <p>横浜市中区あざみ野一・一九・一 電話〇四五(九)〇二九〇二二</p>	<p>㈱マリノロジスティックス</p> <p>代表取締役社長 小松 省二</p> <p>東京都港区赤坂二・八・十四 丸玉第一ビル七階 電話〇三(六)四三〇五〇八〇 FAX〇三(三)五六八三三四八四</p>
<p>学校法人電子学園</p> <p>理事長 おおの ただかず 多 忠和</p>	<p>社団法人亜東親善協会</p> <p>理事 吳 淑娥</p>	<p>社団法人亜東親善協会</p> <p>理事 伊野 雅晴</p>	<p>日華仏教文化交流協会</p> <p>東京都台東区寿一・十九・一 電話〇三(三)八四〇一七二二</p>

お知らせ

【新春互礼会の御案内】

恒例の新春互礼会は平成二十五年二月五日（火）午後六時
ザ・キャピタルホテル東京・鳳凰の間 ○三・三五〇三・〇一〇九
台北駐日経済文化代表處代表・沈斯淳閣下、衆参国会議員、
華僑団体等ご出席が予定されており、（参加会費一万円）

【訪台団・社会見学会・留学生国会見学会】

昨年は、「季刊亜東」夏季号に並木正芳理事の訪台記で報告の
通り、東日本大震災に際し台湾からのご支援・友情に心底より
謝意を伝えるため、二六名の訪台団が結成されました。協会では
本年三泊四日の訪台団を予定、訪問地希望先等は事務局まで。
社会見学会先、開催時期の希望等は事務局まで、留学生対象
の国会見学会ですが、会員対象の見学会も企画可能です。

【訃報】

中国信託銀行創業者・辜濂松会長（台湾工商協進會・元理事長）
十二月六日御逝去されました。（享年七九歳）日本より旭日重光章
を今春授与されています。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記 季刊「亜東」平成二十五年 新春号

新年明けまして、おめでとうございます。

本年も協会運営に御高配賜りますよう宜しくお願い申し上げます。
昨年末の国政選挙により、安倍晋三会長が内閣総理大臣に就任
されました。誠におめでとうございます。就任に伴い弊協会の
会長を退任されることとなりました。残念の限りですが、新春
互礼会には、公務多忙中、是非、御臨席を期待致しております。
○協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っております。
○協会各位のご紹介により多くのご入会を期待致しております。

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民國總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成25年 新春号 (No.43)

発行日 : 平成25年1月15日

発行所 : 社団法人亜東親善協会

編集 : 南部晴彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770

H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。
日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。
台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。